

## 地 域 再 生 計 画

### 1. 地域再生計画の名称

壱岐・平戸の相互供給による販路拡大計画

### 2. 地域再生計画の作成主体の名称

長崎県、平戸市

### 3. 地域再生計画の区域

長崎県壱岐市及び平戸市の区域の一部（勝本港、郷ノ浦港、平戸港、度島漁港、新大久保漁港、堤漁港、猪渡谷漁港）

### 4. 地域再生計画の目標

#### 4-1 地域の現況

壱岐市は、福岡県と対馬市の間地点で玄界灘に面し、福岡市博多港から郷ノ浦港まで西北に76km、佐賀県唐津東港から印通寺港まで北に41kmの場所に位置している。南北約17km、東西約15kmのやや南北に長い亀状の島で、壱岐本島と23の属島(有人島4、無人島19)からなる全国で20番目(沖縄を除く)に大きな島であり、平成16年3月1日に郷ノ浦町・勝本町・芦辺町・石田町の4町が合併して「壱岐市」が誕生した。総面積は139.42km<sup>2</sup>、人口は約26千人(平成30年7月現在)であり、一部地域が壱岐対馬国定公園に指定され、昭和53年6月16日には、辰の島、手長島、妻ヶ島の3箇所が海中公園地区に指定されるなど自然景観にも恵まれており、年間に延べ約57万人(平成29年観光統計)の観光客が訪れている。また、壱岐市は「魏志倭人伝」や「日本書紀」にも登場し、弥生時代から長年にわたって海上交通の要衝となった歴史があり、この歴史的特長から、「国境の島 壱岐・対馬・五島～古代からの架け橋～」として平成27年に日本遺産に認定されている。

平戸市は九州本土の最西端、平戸瀬戸を隔てて南北に細長く横たわっている平戸島と、その周辺に点在する大小およそ40の島々から構成されている。平戸市の面積は235.63km<sup>2</sup>あり、北に玄界灘、西には東シナ海を望む日本本土最西端の地である。その多くは平坦地に乏しい起伏の多い地形となっており、海岸線はリアス式海岸で変化に富み、表情豊かな自然景観を形成している。その為、その一部は西海国立公園の指定を受けている。

この内、事業対象箇所となる度島は平戸島最北端から2.3kmに位置し、東西に約3.5km、南北約1kmの横長の島である。全体的に見ると標高約70～80mの台地状の島である。海岸線延長は約12kmで北西海岸は外海に面しており、

約 20～30m の海食崖が連続している。

地域の交通体系としては、国道 383 号線が平戸本島内を縦断しており、本土部との連絡は平戸大橋を経由し、平戸市田平町を経て佐賀県北部～福岡方面及び佐世保市方面へ西九州道路や関連する道路整備が行われており、広域的なネットワークが形成されようとしているところである。

平戸市は地方分権の進展や少子・高齢化・過疎化といった社会環境の変化に加え、交通環境の改善及び住民のライフスタイルの多様化に伴う生活圏の拡大、さらには厳しい地方財政などを背景に平成 17 年 10 月、平戸市、田平町、生月町、大島村の 1 市 2 町 1 村による市町村合併を行い、新「平戸市」となった。

勝本港は、壱岐島北端に位置し、対馬水道の好漁場にも近いことから、マグロなどの漁獲量も多く、多数の漁船を有する港湾として発展している。漁船を安全に係留するための防波堤の整備と併せ、漁船が水揚げ・休けいする物揚場の整備を進めており、漁獲物の効率的な水揚げと円滑な流通を図ることで、漁業振興に貢献する港づくりを目指している。

郷ノ浦港は、壱岐島の南西部に位置し、南方に九州本土を望む天然の良港であり、旧松浦藩時代には九州本土を始め、本州や朝鮮、中国方面と盛んな貿易が行われていた。現在では、博多～壱岐～対馬間のフェリー・高速船や周辺離島への定期航路が就航し、壱岐島の玄関口として重要な役割を果たしている。

平戸港は、平戸島北部の平戸瀬戸に面し、深く湾入した天然の良港であり、長崎県本土とは瀬戸を挟んで 600m の近さにある。島の玄関口である本港は、我が国における海外貿易発祥の地であり、旧城下町は本港を中心に発達し、市街の様相もほぼその時期に基礎が確立された。現在、本港は 2 地区に分かれる。旧来からの平戸港で、現在観光基地としての機能を果たしている平戸地区と、その平戸地区の南隣に位置し小型船だまりとなっている白浜地区である。ともに、観光及び漁業・物資の根拠地として重要な役割を果たしている。

度島漁港は、平戸島北の小島で玄界灘に面した天然の好漁場に恵まれ、古来より沿岸漁業の基地として発展し現在に至っている。また、陸地の大部分は丘陵地であるため、耕地に乏しく、漁業が島唯一の産業として経済を支えている。度島地区は、離島及び過疎地域に指定され、条件不利地域であるが、沿岸漁業が主体で、水産業が地域経済を支える重要な役割を果たしている。

平成 30 年 7 月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として、世界遺産に登録された。その構成資産の中には、平戸港も位置する平戸市の春日集落と安満岳、中江ノ島も含まれる。世界遺産の登録が実現し、観光客の増加が見込まれる中、平戸港においては、平戸市が行う「古民家散策と世

界遺産中江ノ島クルーズ」といった平戸市大島村神浦の古民家散策と潜伏キリシタンの聖地中江ノ島を周遊する事業も実施されている。

新大久保漁港は、平戸島の北部に位置し、天然の地形を利用した漁港で、地元の漁業の拠点として利用されている。本港は平成 29 年に 2 つの漁港が合併してできた漁港であり、現在は須草地区と泊ヶ浦地区となっている。須草地区に陸揚げ機能を集約することで、効率的な漁港運営を実施している。

堤漁港は、平戸島南部地区の西海岸に位置し、主に陸揚げ拠点の一角として利用されており、地域水産業の基地港として重要な役割を担っている。当地区の主な産業は水産業と農業であり、特に水産業は漁業者も多く地域経済を支える重要な役割を果たしている。

猪渡谷漁港は、平戸島南部地区の湾奥に位置し、沿岸漁業の基地港として利用されている。陸揚げについては、先に述べた堤漁港を主に利用している。小規模な漁港であるが、湾奥に位置することから冬季波浪の影響を受けにくく、漁船の係留地として重要な役割を果たしている。

壱岐市においては、平成 27 年に日本遺産に認定されており、日本遺産の構成要素の 1 つとなっている勝本城跡がある。さらに近辺には、海中公園地区に指定される辰の島があり、勝本港からは勝本町漁協が経営している遊覧船や渡船が出ており、近年観光客数が増加している。

#### 4-2 地域の課題

壱岐地域の勝本地区では、マグロやウニなどの海産物を取扱っているが、遊覧船発着所と商店街が離れているため、バスや車で訪れる遊覧船観光客が朝市や商店街を素通りする場合があります。周辺観光施設の利用者数の伸びに対して、地元商店街の売り上げは低下するなど、地元への観光消費額につながりにくい状況となっている。郷ノ浦地区は、壱岐島における島内外の玄関口として人流の拠点となっており、本土からの大勢の観光客等の玄関口となっているが、施設の老朽化やバリアフリーが不十分な状況にあり、来島する観光客等への満足度の低下が懸念されている。また日本遺産への登録など壱岐島内に観光資源があるにもかかわらず、「壱岐を全く知らない」、「壱岐の場所が分からない」などの意見があり、知名度の向上のアピール不足、情報発信の遅れ等が課題となっている。

平戸地域では、平戸を代表する魚でアゴなどの海産物を取扱っているが、世界遺産登録による観光客の増加に対応するため、今後さらに安定的な生産流通機能を確保する必要があると考えられる。

このように、各地区において水産業の発展が必要となる中、勝本港・平戸港においては、施設の老朽化にあわせた港湾施設の再編や高齢化する漁業者の就労環境の改善が課題となり、郷ノ浦港においては、定期航路関連施設の老朽化及び利用者のバリアフリー化が課題となっている。度島漁港について

は、度島内で陸揚げされた漁獲物を安定的に出荷するための基地港としての機能だけでなく、本土と度島を結ぶ唯一の航路を有しており、住民生活にとっても重要な漁港であるが、強風や越波により、フェリーの入出港や船舶の航行に多大な影響を来していることが課題となっている。新大久保漁港、堤漁港、猪渡谷漁港については、平戸市内の他の漁港と同じく施設の老朽化や高齢化する漁業者の就労環境の改善が問題となっている。特に利用頻度が高い物揚場については、車止めが無い場合や、ある場合でも老朽化によりその機能が著しく低下していることから、自動車が海中転落する可能性がある中での漁業活動を強いられていることが課題となっている。

#### 4-3 計画の目標

こうした状況を踏まえ、壱岐のマグロ、ウニ等と平戸のアゴ・かまぼこ等のそれぞれの特産物を相互供給することで、福岡等都市圏あるいは海外から壱岐・平戸にそれぞれに訪れる観光客にもう一方の世界遺産や日本遺産及びそれぞれの特産物を直売所へ置くことでPRし、両地域に観光客を誘客し、観光客数の増加を目指す。また都市圏の観光客に壱岐・平戸の特産物を認識してもらうことで大消費地への販路を拡大し、両地域の基幹産業である観光業や水産業の競争力強化を図る。あわせて観光客の受入環境の整備として、玄関口である郷ノ浦港の定期船航路施設の整備や、勝本港、平戸港及び度島漁港、新大久保漁港、堤漁港、猪渡谷漁港において陸揚げ、準備作業の軽労化や作業の効率化など就労環境の改善及び安全性の向上を図る施設を総合的に整備することにより、水産物の安定的な確保といった効果が得られ、それに伴う雇用の創出、利便性・安全性・満足度の向上を図る。

(目標1) 勝本地区主要観光施設(辰の島、イルカパーク、勝本歴史まち歩き)の利用者数の増加

41,730人/年(H29) → 44,711人/年(R7)

(目標2) 平戸市漁協の水揚高の増加

1,694百万円(H29) → 1,739百万円(R7)

(目標3) 平戸瀬戸市場の売上額の増加

954百万円(H29) → 976百万円(R7)

## 5. 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

勝本港塩谷地区は、荷揚げスペースを拡幅し、利便性と安全性の向上のため、物揚場を整備する。併せて、遊覧船発着所を商店街近くへ設置し、利用客の利便性や地元との連携強化のため、浮棧橋の整備を行う。また、計画地背後の臨港道路においては、カーブ箇所などが危険な状態であることから、

臨港道路の整備を行う。

郷ノ浦港郷ノ浦地区は、高速船乗降者の利便性と安全性向上、満足度向上のため浮棧橋の整備と老朽化した可動橋及び高速船休憩用浮棧橋の整備を行う。平戸港白浜地区は、施設利用者の安全性向上及び作業効率向上のため、浮棧橋及び防波堤の整備を行う。

度島漁港本村地区は、物揚場及び岸壁を嵩上げすることにより、陸揚機能の強化を図る。また、突堤、物揚場を改良することで、生産・流通機能を持続させ、漁業活動の停止等による損失の低減を図るものである。

新大久保漁港、堤漁港、猪渡谷漁港においては安全性向上のため、物揚場に車止めを整備する。

## 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

### (1) 地方創生港整備推進交付金【A3010】

#### 【施設の種類の種類、事業主体】

- ・港湾施設（勝本港、郷ノ浦港、平戸港）長崎県
- ・漁港施設（度島漁港）長崎県  
（新大久保漁港、堤漁港、猪渡谷漁港）平戸市

#### 【事業期間】

- ・港湾施設 令和1年度～令和7年度
- ・漁港施設 令和1年度～令和4年度

#### 【整備量】

- ・港湾施設 係留施設、外郭施設、水域施設、臨港交通施設、港湾環境整備施設
- ・漁港施設 係留施設、外郭施設

#### 【事業費】

- ・総事業費 3,379,250千円
- ・港湾施設 2,882,550千円（うち交付金 1,599,850千円）
- ・漁港施設 496,700千円（うち交付金 346,350千円）

#### 【事業の実施状況に関する客観的な指標及び評価の方法】

(年度)	基準年度 H29	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
指標1 観光客の増加 勝本港遊覧船利用人数	19,065人	20,917人	22,029人	22,696人	23,363人	24,030人	24,697人	25,365人

毎年度終了後に壱岐市政策企画課企画班による統計データを集計し、速やかに状況を把握する。

(年度)	基準年度 H29	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
指標2 漁業所得の向上 平戸市漁協の漁業所得	2,559 千円/人	2,610 千円/人	2,661 千円/人	2,692 千円/人	2,723 千円/人	2,754 千円/人	2,785 千円/人	2,817 千円/人

毎年度終了後に平戸市水産課による統計データを集計し、速やかに状況を把握する。

### 【事業が先導的なものであると認められる理由】

港湾と漁港を一体的に整備することによって、個別に整備するのに比べて、効率的な整備が可能となり、壱岐地域においては、高速船利用者のバリアフリー化や、準備・陸揚作業の安全性向上、軽労化といった就労環境の改善及び遊覧船利用客の利便性や地元との連携強化を実現し、平戸地域においては、アゴ漁の基地にもなっている平戸港・度島漁港・新大久保漁港・堤漁港・猪渡谷漁港で陸揚作業等の安全性向上、軽労化といった施設整備を行い、生産性の向上を図ることで、それぞれ地域の観光資源や食文化を組合せ交流人口の増加、水産物の消費拡大・販売促進を図る。以上のことから港湾及び漁港を一体的に整備することにより、地域再生の目標達成に資することが期待できる点で先導的な事業となっている。

港湾施設（勝本港・郷ノ浦港・平戸港）及び漁港施設（度島漁港）は長崎県国土強靱化地域計画に基づき実施するものである。新大久保漁港、堤漁港、猪渡谷漁港は、平戸市国土強靱化地域計画に基づき実施するものである。

## 5-3 その他の事業

### 5-3-1 地域再生基本方針に基づく支援措置

該当なし

### 5-3-2 支援措置によらない独自の取組

(壱岐の取組)

- ・辰の島巡り遊覧と渡船

内容：日本の快水浴場百選に選ばれた辰の島の透明度が高い海やその周辺の奇岩・断崖絶壁を海上から見上げる島巡り。またその海水浴場への渡船を行っている。

事業主体：勝本町漁協

- ・壱岐市勝本浦地区街なみ整備事業

内容：歴史を活かした街なみ景観を整備及び保存する為、壱岐市勝本浦地区で建築物等の整備を行う者に対し、壱岐市勝本浦地区街なみ環境整備事業補助金を交付する。(平成20年度～)

事業主体：壱岐市

- ・遊覧船の待合所・直売所の建設

内容：埋立地での遊覧船待合所や直売所の建設を行い、地域の観光拠点にすることで地域の交流促進を図る。

事業主体：壱岐市

- ・壱岐の島夜空の祭典

内容：花火大会実施し、市民の親睦と融和・結束を図り、地域・観光振興に寄与しようとするものである。

事業主体：壱岐の島夜空の祭典実行委員会

(壱岐市商工会青年部勝本支部・勝本町漁業協同組合青壮年部)

- ・勝本朝市まつり

内容：歴史ある独特の風物詩の「勝本朝市」をPRすると共に、地域ぐるみで老若男女が楽しめるイベント。勝本朝市では、小魚や干物などの海産物や農産物の店が出ており、観光客及び地域の交流促進を図る。

(平戸の取組)

- ・古民家散策と世界遺産中江ノ島クルーズ

内容：国の文化財である重要伝統的建造物群保存地区に選定された「平戸市大島村神浦の古民家散策」と世界遺産に登録された潜伏キリシタンの聖地「中江ノ島」を周遊する事業。平戸港を発着地点として実施予定。

事業主体：平戸市

- ・浜の魅力発信、漁業就業促進総合支援事業

内容：関係機関で組織する平戸市漁業担い手確保支援協議会で承認された新規漁業者（Uターン者、漁家子弟）の定住促進を図るため生活費等の支援を実施する。

事業主体：平戸市

- ・平戸瀬戸市場 新米・新あご祭り

内容：平戸市の主力特産品である「あご（トビウオ）」や同時期に収穫される「新米」（世界文化遺産構成地の春日集落で作られた棚田米等）をメインとする平戸産品をお買い求めやすく販売す

るイベント。平戸の玄関口である平戸瀬戸市場で実施。  
事業主体：平戸瀬戸市場協同組合

・平戸特産の水産物による魚まつり

内容：平戸市で四季折々に水揚げされる代表的な水産物をメインとして、春は「平戸天然ひらめまつり」、秋は「平戸天然あらなべ祭り」「いきつき勇魚（鯨）まつり」などを開催している。

事業主体：平戸観光協会

## 6. 計画期間

令和1年度～令和7年度（7カ年）

## 7. 目標の達成状況に係る評価に関する事項

### 7-1 目標の達成状況に係る評価の手法

4に示す地域再生計画の目標については、計画期間の中間年度及び計画年度終了後に、データの集計を行い、速やかに状況を把握する。定量的な目標に関わる基礎データは、壱岐市や平戸市の統計データを用い、中間評価、事後評価の際には、長崎県まち・ひと・しごと創生対策懇話会にて評価を行う。

### 7-2 目標の達成状況に係る評価の次期及び評価を行う内容

	(基準年度)	(中間年度)	(最終目標)
目標1 勝本地区主要観光施設の利用者数の増加	平成29年度 41,730人/年	令和4年度 43,519人/年	令和7年度 44,711人/年
目標2 平戸市漁協の水揚げ高の増加	平成29年度 1,694百万円	令和4年度 1,720百万円	令和7年度 1,739百万円
目標3 平戸瀬戸市場の売上額の増加	平成29年度 954百万円	令和4年度 940百万円	令和7年度 976百万円

(指標とする数値の収集方法)

項目	収集方法
勝本地区主要観光施設の利用者数の増加	壱岐市政策企画課企画班統計データ、観光連盟ヒアリングより
平戸市漁協の水揚げ高の増加	平戸市水産課ヒアリングより
平戸瀬戸市場の売上額の増加	平戸市水産課ヒアリングより

・目標の達成状況以外での評価を行う内容

1. 事業の進捗状況
2. 総合的な評価や今後の方針

### 7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

計画終了後、4に示す数値目標に照らし本計画全体の事後評価を行い、ホームページ等で公表する。